

社会保険労務士のむら事務所通信

2017春号
発行人：野村祐輔
2017年4月1日発行
第4号

高齢者も働かざるを得ない社会では…

以前勤めていた職場のそのビルを管理をされている部署に、渡辺さんという年配の方がいらっしゃいました。私もそこに20年ほど勤めていたのですが、考えてみるに就業当初から渡辺さんは在籍していて、いつも長い脚立をひょいと持ち出しひとりで高いところの電球を変える姿を見て、身軽だなど、同時に当時から、そこその年配であろうなと感じてました。



4～5年前くらいでしょうか？ある日、渡辺さんに”失礼ですが、私が若いときから渡辺さんはいらっしゃいますけれども、おいくつなのですか？”と聞くと、”来年で90歳”とのこと！想像していたこととはいえ、年齢を聞くとやはり驚かざるを得ません。最近では、さすがに電球を変える姿は見せないみたいですし、働く回数も週2回になったということですが、まだまだ元気に働いているそうです。まさに生涯現役ですね。

渡辺さんはお年ではありますが、誰よりもそのビルのわからないこと（例えば電気系統トラブル処理とか）をビルの設計図をわざわざ持ち出さなくても、渡辺さんに聞けば解決するというので、とても重宝されているみたいです。実は何回か、会社側から退職の話が出たらしいのですが、渡辺さんがいないとビル管理に支障が出る、という事で流れたこともあったそうです。回りからからも、その存在が求められていることは、高齢者にとっても働きがいのある職場であるでしょうし、同時に仕事が、生きがいになっているのではと推測します。

働き方改革で、これからは高齢者も働くことが前提となった社会作りが推進されることと思いますが、働きがいのある職場作り、生きがいのある生活に結びつくような職場環境がとても大切なことになってゆくのは必然ですね。元来働くということは、辛いことなのではなくて楽しいことのはずです。ましてや、その仕事ぶりが人から賞賛されるのであれば、なおさらです。人から認められて働くというのは、働く上で賃金よりも大事な事なのかもしれません。

私は社会保険労務士であると同時にプロボウラーでもあります。今でも、プロボウリング協会主催の（初心者からの）健康ボウリング教室を時々行っていますが、そこでの一番の目標は必ずしも上手にさせることだけではなくて、生徒さんにボウリングを大好きになってもらい、生涯楽しめる存在にして欲しい、これからの生活のある意味”生きがい”にして欲しいと思いながら教えています。年齢を重ねてもやりがいのある仕事や趣味を持つことが、高齢者に限らず、人には必要なことですよね。

働き方改革で制度を作っていくのはとても大事なのですが、そこで働く人達の働きがいひいては生きがいを損ねるものであってはならないと思います。その部分をおろそかにしないことこそがこの政策の成否の大きなキモになるのではないのではと私は思います。

三鷹福祉専門学校で講師を始めます

学生の頃に、自分がこれだけは、ならないと思っていた職業があります。それは学校の先生。人様の前に立って、偉そうに（ではないでしょうけれども）話をする先生という職業は、自分向きではないな！と就職をする際の選択肢の端にも入っていませんでした。

そんな私が、いつのまにか気恥ずかしくも先生と呼ばれる職業の端くれになり、今度は三鷹にある三鷹福祉専門学校内の職業訓練コースではありますが、本当に教壇に立つことになりました。本当に子供の頃の自分に見せてあげたい！まさに人生一寸先は闇？穴があったら入りたい！そんな気分です。



社会保険も週20時間で加入可能に!

平成28年10月から、週30時間以上働く方に加え、従業員501人以上の会社で週20時間以上働く方などにも厚生年金保険・健康保険（社会保険）の加入対象が広がりました。

さらに、平成29年4月からは、従業員500人以下の会社で働く方でも、労使で合意すれば社会保険に加入できるようになり、より多くの方が、これまでより厚い保障を受けることができるようになります。

ただし該当する個人個人が社会保険の加入未加入を選ぶというわけではなく該当する社員全員がどちらかになるので、よく会社内の社員間での議論と説明が必要です。

以後も社会保険の適用拡大の流れは大きくなり、強制適用の範囲も広がってゆくことと思います。

長時間労働の規制の方向は？



働き方改革の大きな柱である長時間労働の是正。その残業規制案がだんだんまとまってきました。「月45時間、年間360時間以内」が原則。繁忙期でも「月100時間未満」「2～6カ月の月平均がいずれも80時間以内」。月45時間超は年6回まで。繁忙期を含め「年720時間以内」となります。また建設業や運輸業、医師は法施行後5年間、猶予される予定です。

つぶやき

英国のEU離脱から端を発した、世界的な保護主義台頭のドミノ倒し現象は、私のような市井の人間にさえも、危機感を抱かせるに充分です。自由の国アメリカですら自国優先を唱えるトランプ氏が大統領になるなど予測不能の世界情勢。これでトランプ氏が失政で失敗したらアメリカの信頼は世界的に失墜するでしょうし、例えトランプ氏の政策が成功しても、次の大統領はトランプ以上の保護主義者になること、間違いなし。どちらに転んでも良い方向ではないですね。